藤井寺市観光ボランティアの会

美陵ガイドクラブ会報

〒583-8583　藤井寺市岡1-1-1（藤井寺市役所　藤井寺市観光協会内）
TEL：072-939-1086　　FAX：072-936-9777　検索　藤井寺 観光 ボランティア

第 18 号　2017 年 1 月

《 厚生労働省よりの表彰 》

藤井寺市観光ボランティアの会　会長　小野常芳

平成 28 年度大阪府社会福祉大会が 11 月 16 日大阪国際交流センターにて行われました。

雲一つない秋晴れの日、事務局の山本氏と私は約 2000 名参加の大阪府社会福祉協議会設立 65 周年・共同募金運動 70 周年記念の会場に向かいました。

我々の指定席は大ホールの中央エリアにあり、資料によりますと表彰状・感謝状は 634 の個人・団体が受けますが、「厚生労働大臣表彰」は個人 9 名、団体 16 でありました。全国では 253 の個人・団体が受賞しました。

大会は主催者・来賓の祝辞が続々と行われ、表彰状・感謝状の贈呈になると最初に代表の一人が登壇し表彰状を受けました。我々は大きな賞状と記念品の漆塗り直径 35ｃｍの飾り盆を頂きました。

会場を出た所、丁度西日が燦々と降りそそぎ、この受賞への喜びが湧きあがり身の引き締まる思いが致しました。

古市古墳群の世界文化遺産登録が実現した時には、我らの誇れる観ボラ仲間とこの栄誉に恥じることのないガイド等、今まで以上に力を発揮したいと決意を新たにしました。

《 藤井寺市よりの表彰 》

平成 28 年 11 月 3 日（祝）パープルホールにおきまして「市制施行 50 周年記念式典」が開催されました。式典には事務局山本氏と私が会の代表として臨みました。当会は 96 の団体とともに「地域社会の発展と市政の推進に寄与した」として感謝状を贈呈されました。当会は平成 17 年に“街おこし”を目的として発足して以来、市内の古墳や文化財の勉強に励み「ともに楽しく！」を合言葉にガイド活動等を行ってきましたが、その後有為な人材が次々と集まり、現在 72 名となりました。藤井寺市および観光協会をはじめ関係諸団体の暖かい支援にも恵まれています。

今回の感謝状に対し、我々はこれを真摯に受け止め、いよいよ実現が迫っている古市古墳群の世界文化遺産登録時には日ごろ鍛えたガイドにてこの街の人々に報いたいと思います。（小野）

《 だんじり・太鼓台フェスタ２０１６ 》

10 月 2 日（日）市制施行 50 周年記念行事として藤井寺駅北ロータリー・市道藤井寺駅北線で市内 13 地区から「だんじり」9 台「太鼓台」4 台が集合し、練りなどの披露が行われました。

今までになく大勢の人々が集まり、藤井寺の熱気を感じる催しでした。（広報部）

《 市制施行５０周年記念　ふじいでら秋季ウォーク 》

－国宝と古市古墳群をめぐる－

10 月 18 日（火）ふじいでら秋季ウォークが開催されました。葛井寺を起点に応神天皇陵古墳をはじめ主な古墳を巡り道明寺、道明寺天満宮までの約 8km のコースを歩きました。天候にも恵まれ、106 名の参加の皆様には秋を満喫していただきました。

今回は市制施行 50 周年記念として、大阪府下でもとびぬけて沢山の国宝がある藤井寺市の「国宝拝観」を企画しました。おかげさまで予想を超えて半数の方が国宝を拝観されました。私の担当した国宝拝観希望の班は 23 名の大人数。葛井寺のご住職は十一面千手千眼観世音菩薩、道明寺天満宮の宮司様は菅原道真公の遺品をそれぞれ熱のこもったご説明に皆様大いに感心されていました。

近鉄電車の線路が神社の境内を横断している澤田八幡神社で、「ここを吉野に向けて青のシンフォニーが通ります」と言うと、すかさず参加者から「あと５分です」の声…なんとあの特徴的なブルーの特急が発言通りに通過!!! 思わぬシャッターチャンスに皆様大喜びでした。

また、古室山古墳や鍋塚古墳の墳丘頂からの眺望に感動され、登れる古墳に満足のご様子でした。「梅や桜の季節はもっと、きれいですよ」とお話しますと「また是非！」とのことでした。

お帰りの際に「地元の者ですが初めてガイドの説明を聞いて、改めて歴史に興味を持ちました」と感想を頂きました。今回のウォークも事故なく、無事に楽しく終わり良かったです。ご協力いただいた団体、ご参加の皆様に感謝申し上げます。（森康）

《 ふじいでら市民まつり 2016 》しゅらまつり　９月 19 日（月）

開催予定日の１８日は朝から雨で順延となり、藤井寺駅北交流広場での催しが中止となりました。当会が準備していた古代衣装の大王や姫、女性メンバーの千手観音踊りなどは残念ながら披露できませんでした。

19 日はメイン会場のグランドやテントの中は歩けないくらい泥んこ状態に。段ボールやシートを敷くなど緊急対策をして無事オープンにこぎつけました。悪天候にも関わらず例年通り大勢のお客様が来てくださいました。

最初は「折り紙すもうでトントンあ・そ・ぼ」。小さい子供さんと一緒に慣れない手つきで折り紙に挑戦する男性会員。女の子は「折り方を見たらすぐわかるわ」など得意げな表情。トントン紙ずもうごっこも楽しそうでした。藤井寺の歴史に関する「クイズ大会！」では周りが騒がしい中、耳を澄ませて問題をしっかり聞いてくださるなど熱心なお客様が多く、正解者へのプレゼントも大好評でした。

午後の部は「楽しい手品」から開始。次々に出てくる自慢のネタに「あれっ、不思議？」「なんでー」と子ども達は目を丸くして熱心に見ていました。最後は「藤井寺の民話紙芝居」です。赤鬼親子の登場にびっくりのお客様、鬼のパンツの手遊びや歌で最高に盛り上がり楽しい締めくくりになりました。

お天気も何とかもち、プログラムを終える事ができました。ご参加いただいた皆様、そして、ご協力頂いた関係の皆様ありがとうございました。（山崎）

《 第７回　あい・ウォーク　藤井寺小学校 》

10 月 16 日（日）藤井寺ライオンズクラブ・市青少年指導員会・市教育委員会の主催で、藤井寺小学校の児童・保護者の皆さんを対象として第７回「あい・ウォーク」が開催されました。毎年１校を対象に実施されており、今回で市内全ての小学校が参加した事になります。当会も例年通りガイドとして協力させて頂きました。

藤井寺小学校は生徒数が一番多く、保護者の皆さんを含め約 170 名の参加となりました。先発・後発の交互のウォークコースに分かれ、鉢塚古墳～仲哀天皇陵古墳～シュラホール～辛國神社へ小学校をスタートしました。

仲哀天皇陵古墳では校区にある津堂城山古墳と違って、墳丘や濠の大きさに感心したり、シュラホールでは、「まなりくん」のお出迎えに子供たちは大喜びでした。展示室では古墳から出土した鉄器類や埴輪に、興味津々の様子で親子一緒に見入っていました。これからも子供たちが藤井寺の文化遺産に興味を持ち、大切にしたいと思う気持ちを育んでほしいと思いました。

小学校に戻り、子供たちはクイズに挑戦し正解後にお楽しみのホッカホカの焼きいもを美味しそうに頬張っていました。

秋晴れ。汗がにじむ日差しの中で、会話を楽しみながら無事にウォークを終えることができました。（高橋）

《 広陵町文化財ガイドの会との交流 》

10 月 18 日広陵町文化財ガイドの会の皆様が古墳巡りに来られました。

広陵町文化財ガイドの会は 5 年前に設立、現在 25 名の会員で奈良盆地の西部にある馬見古墳群のガイドをしておられます。

馬見古墳群には 220mの前方後円墳、巣山古墳があり濠に島状遺構を持ちます。それとほぼ同じ島状遺構を有する古市古墳群の津堂城山古墳に興味を持たれて、バスで来られました。

当会にとってバスとウォークを交互に織り込んだ初めての行程とオリジナルマップを作成して、ご案内をしました。マップもコースが良く分かると好評をいただきました。

後日、広陵町で牧野古墳の横穴石室の公開があると聞き当会会員有志で見学に行きました。

馬見古墳群も古市古墳群と同時期に巨大古墳が造られており、興味が尽きません。

（山﨑）

牧野古墳（ばくやこふん）見学会に行きました　11 月 27 日

「雨の中よく来て下さいました」と広陵町文化財ガイドの会の会長さんに歓迎を受け、ご案内を頂きました。家の立ち並ぶ街の中の丘に、東屋と 10 台余の駐車場があり、円墳全体が公園となっているような小さな古墳公園でした。

60mの円墳の横穴式石室の入り口からライトの光を頼りに進むと、石舞台古墳より僅かに小さいとはいえ、長さ 17.1m、玄室幅 3.3m、高さ 4.5mの石室は巨石の石組みと相まって暗闇の幽玄の世界に迷い込んだよう。

被葬者は 30 代敏達天皇の皇子「押坂彦人大兄皇子?」とか、副葬品も馬具、鉄刀など結構いいものが出土していますなどの説明があり、広陵町は日本一の「靴下のまち」ですと町のＰＲもされていました。

「馬見古墳群」なかなか面白そうです。（南）

大坂夏の陣と周辺の村々

「大坂夏の陣」というと名高い武将たちの活躍ばかりが取り上げられがちですが、この戦いで戦死した人の数は２万人は下らないと伝わっており、大坂の町や周辺の村の民衆も巻き込んだ大規模で悲惨な戦いでした。西軍は行く先々で村を焼いており、藤井寺周辺の村々も例外ではなかったようです。民衆にも戦禍が及び多くの犠牲を払いました。

慶長 20 年（1615 年）５月、戦場となった柏原の玉手村、片山村は、すべてが焼き払われ、住民は安全な場所に避難せざるをえませんでした。さらに、誉田村あたりで真田隊と伊達隊が激闘、真田隊は藤井寺の野中村へ放火し、退却しました。また、真田隊は、松原の旧城連村（現天美北）などの村むらも焼き払い、作付けはもちろん住居もままならず住民は避難、住民の信仰の対象であった多くの寺院も兵火のため灰燼に帰しました。

戦いの爪跡は深く、これらの村むらは江戸時代に多くの時間と労力をかけて村落を再建しました。わたしたちは、戦場となった地元のガイドとして、民衆の苦難の戦災があったことも伝えていく必要があるのではないでしょうか。

玉手山丘陵７号墳の墳丘に、江戸時代、可憶上人が両軍の戦死者を弔うために建てた宝篋印塔（ほうきょういんとう）があります。正面に刻まれた「南無阿弥陀佛」の文字は戦禍の広がった西北の方向を向いており、復興への願いも込められているようにも思えます。（勝部）

（参考）・『藤井寺市史　第二巻通史編二』　・『柏原市史　第三巻』　・『松原市史　第一巻』
・旧参謀本部編纂『日本の戦史　大坂の役』（徳間文庫 1994 年）
・柏原歴史資料館・特集展示『大坂夏の陣と大坂』（2015 年５月~９月）
・渡辺武『戦国のゲルニカ』（新日本出版社 2015 年）

古墳のある風景　9　　川上　恵　エッセイスト

想像をかきたてる古墳

面白い本に出合った。

「源氏物語が語る古代史」。副題として、交差する日本書紀と源氏物語、とある。「う～ん」とうなってしまった。

作者は倉西裕子さん。紫式部は日本書紀を原資料として源氏物語を書いたのではないかと仮説を立てている。女性ならではの柔らかでロマンティックな発想だ。允恭天皇の第一皇子、木梨軽皇子は絶世の美男子だったそうだ。その皇子が光源氏のモデルだというのだ。

光源氏がそうであるように、木梨軽皇子が立太子のとき、その容姿のあまりの美しさに、拝謁した者はみな感動せずにはいられなかったと、日本書紀には記されている。そして道ならぬ恋で都から追いやられることも同じだ。これも美男の允恭帝は、源氏の父、桐壺帝に当てられている。美男子の血筋なのだ。紫式部は「日本書紀」に明るく、女官たちの間で、「日本紀の御つぼね」と渾名されていた。読み進めていくうちに納得している私がいる。

そんな允恭天皇陵には十基もの陪冢があった。その一つ、陵の東側に位置する宮の南塚古墳は小高い円墳だ。被葬者は分からない。

二十年ほど前までは古墳への細道は桜のトンネルで、散り敷いた花弁はさながらピンクの絨毯だった。倉西さんならこの古墳に誰を眠らせるだろう。想像をかきたてる古墳である。

宮の南塚古墳